

急上昇した9月のトルコのインフレ率

ポイント① 20%を超える消費者物価インフレ率

10月3日発表のトルコの9月の消費者物価指数は前年同月比24.52%の上昇となり、8月の上昇率(17.90%)や事前の市場予想を大きく上回りました。消費者物価インフレ率が20%を超えたのは、2003年8月以来のことです。

さらに、消費者物価指数に先行して動く傾向がある生産者物価指数は、9月には同46.15%と8月の32.13%から急上昇し、2002年6月以来の高い上昇率となりました。そこから見ると、消費者物価インフレ率は今後さらに上昇することが考えられます。

ポイント② 輸入減から品不足が生じている可能性

インフレ率急上昇の背景にあるのは、トルコ・リラの下落です。トルコ・リラの対米ドル為替レートは、7月末の1米ドル=4.9トルコ・リラ前後から8月には一時7.2トルコ・リラ台までトルコ・リラ安が進みました。しかし、9月末には6.0トルコ・リラ近くまで戻しました。

それでも9月にインフレ率が急上昇した背景には、一つには通貨安がインフレに影響するのに時差があることが指摘できます。もう一つにはトルコ当局が導入した資本流出規制によりトルコ・リラの下落は止まったものの、輸入のための外貨資金の手当てが困難になって輸入が急減し、トルコ国内で品不足が生じている可能性があります。

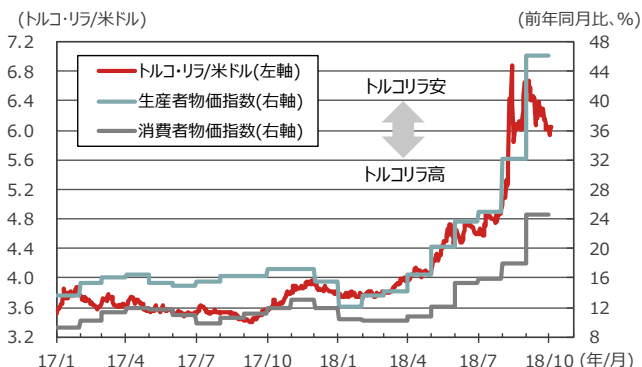
ポイント③ 注目される金融政策の対応

トルコ中央銀行は、9月13日に政策金利である1週間レポレートを17.75%から24.00%へ、後期流動性貸出金利を20.75%から27.00%へと大幅に引き上げました。金融市場では、トルコ中銀がトルコ・リラの下落とインフレ率の上昇を止めるために強い姿勢を示したものと評価され、トルコ・リラの反発につながったようです。

しかし、インフレ率が一段と上昇したことで、市場ではさらなる利上げが必要との見方が強まりそうです。ただ、大幅な利上げが続けば景気が悪化することも考えられます。10月25日の次回の金融政策決定の場でトルコ中銀がどのような決定を下すのかが注目されます。

図1：トルコ・リラとトルコの物価

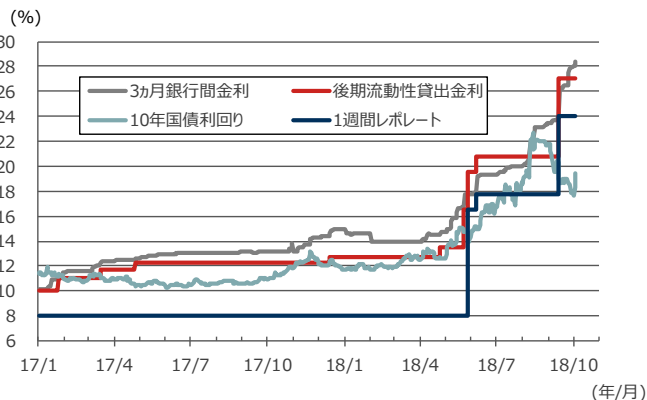
期間：トルコ・リラ：2017年1月1日～2018年10月3日、日次
物価指数：2017年1月～2018年9月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：トルコの政策金利と市場金利

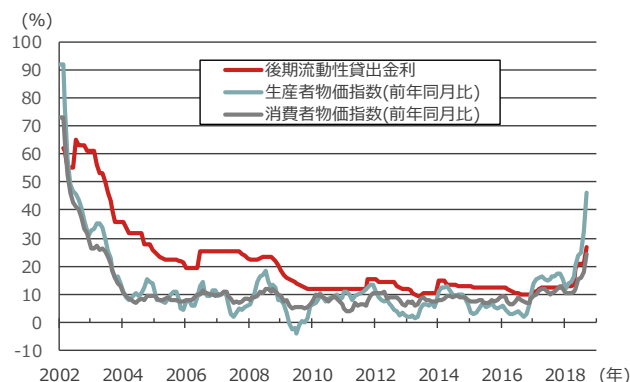
期間：2017年1月1日～2018年10月3日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：トルコの物価と政策金利

期間：2002年1月～2018年9月、月次



(注) 後期流動性貸出金利は2002年2月から

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

10月16日	トルコ鉱工業生産指数 (8月)
10月18日	トルコ今後12ヵ月期待インフレ率 (10月)
10月25日	トルコ金融政策発表、実体経済信頼感指数 (10月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。